

I. 研究報告

1. 川崎の情報教育について

私たち情報教育研究会は、発足以来、【図書】【視聴覚】【放送教育】を統合してとらえ情意面の育成（豊かな心）を図る「川崎の情報教育」に取り組んでいます。その間に社会情勢が変化したり数度の技術革新が起きたりと、私たちを取り巻く状況は常に変化しています。そうした変化の激しい社会、日常の暮らしの中に人工知能などが普及する社会においては、ただ単に一方的に知識を教えるだけの教育を行っていても、期待される人材を育成することはできないと考えます。様々な知識や情報を活用しながら自分の考えを形成したり、新しいアイデアを創造したりする力をもった人材が求められています。これからの時代に求められる資質・能力は情報活用能力をはじめとし、各教科等のつながりの中で育てていくことが大きな課題となってきました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休校措置が取られ、社会全体が先行き不透明な中で新学習指導要領が小学校で実施されました。また、GIGA スクール構想（GIGA = Global and Innovation Gateway for All）の実現についても前倒しで環境整備が急速に進みました。令和3年1月には「令和の日本型学校教育」の構築について中央教育審議会答申も出されました。令和時代のスタンダードとして学校 ICT 環境を整備し、すべての授業で「1人1台環境」でデジタル教科書をはじめとするデジタルコンテンツを活用できるようにコンピュータ端末を整備するように明記されました。川崎市でも「かわさき GIGA スクール構想 未来社会の創り手を育む かわさきの新しい教育」が打ち出されました。令和2年度内には義務教育課程1人1台分のコンピュータ端末及び市内の学校の高速大容量の通信ネットワークが一体的に整備されました。

学校教育課程の編成に当たっては教科横断的な視点に立った資質・能力の育成として児童の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされました。このような中、私たち情報教育研究会の果たすべき役割は益々重要であると考えます。

情報活用能力の育成は各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成立させていくことが課題となります。「カリキュラム・マネジメント」を確立し、教育活動の改善を行っていくことや学校全体としての取り組みを通じて、教科や学年を超えた組織運営の改善を行っていくことも重要であります。また、我々教員は子どもたちが質の高い深い学びができるよう、課題の発見から解決に向けた主体的で協働的な学びの視点から指導法を見直していかなければなりません。私たちを取り巻く状況の中で、情報教育研究会が果たさなければならない役割はますます重要なものになってきていると強く自覚し、研究活動を進めていきます。誰一人取り残すことなく子供たち一人ひとりに個別最適化された、創造性を育む教育の実現に向け今年度も引き続き次のテーマで実践的な研究活動に取り組むことにしました。

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

－ 情報活用能力を育てる授業デザイン －